

# イカナゴ情報 No.2 (2016年6月)

平成28年6月28日

稚内水産試験場調査研究部 (担当: 堀本) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類<sup>1</sup>の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

## 漁獲物調査: 2016年6月は体長20~22cmの2~3歳魚が主体 (図1)

6月の標本測定調査を実施したところ、体長20cm前後の2歳魚と体長22cm前後の3歳魚が主体となっていました。過去2年では、記録的不漁となった2014年は体長23~25cmの4歳魚以上、2015年は体長15~20cmの1~2歳魚が主体となっていました。今年には2015年に高い割合で漁獲されていた1~2歳魚が成長し、引き続き漁獲を支えていると考えられます。

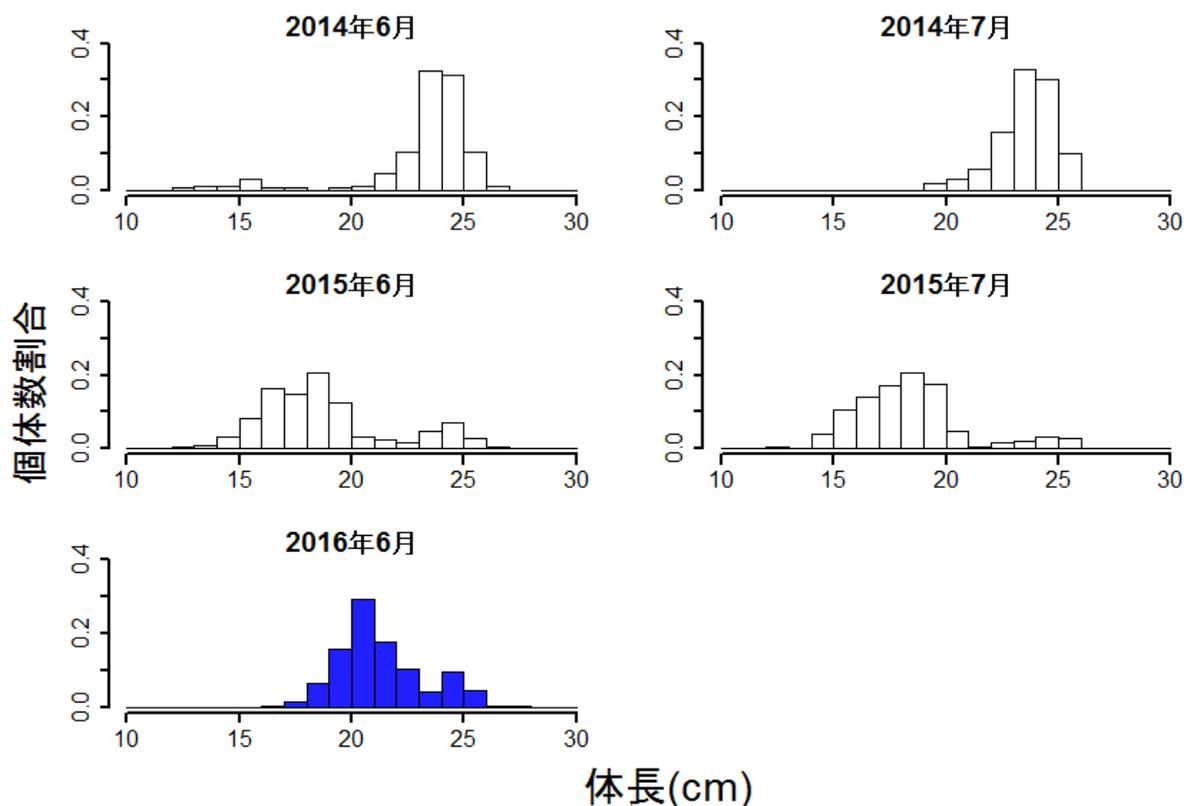


図1. 稚内港に水揚げされたイカナゴ類の6・7月の体長組成 (2014年以降).

<sup>1</sup> イカナゴ類にはイカナゴ, オオイカナゴ, キタイカナゴの3種が含まれる (Orr *et al.*, 2015)

## 海洋観測：水深 50～80 m における底層水温は昨年より高め（図 2）

宗谷海海峡東方海域において 6 月 20～23 日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を行いました。観測ラインの水温断面図をみると、ライン A では沿岸から水深 40 m の海域までは水温 8℃以上の水塊が占め、オッタートロール操業海域の水温はおおむね 6～8℃でした。ライン B では水温 8℃以上の水塊が水深 60 m の海域までを占めていました。昨年同時期と比較すると、イカナゴ漁場周辺の底付近の水温は高い傾向がみられました。

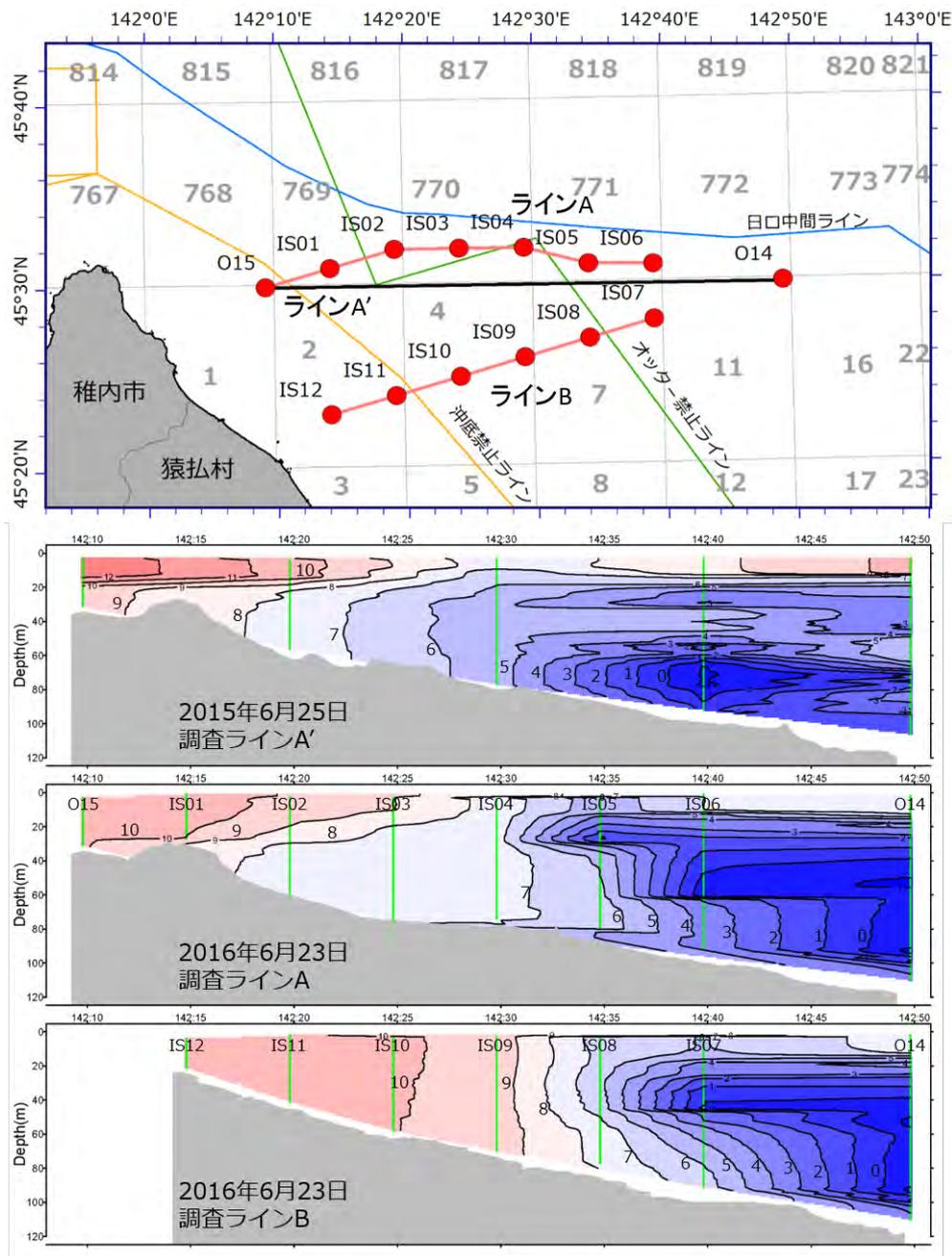


図 2. 海洋観測・魚探観測ラインの位置と水温断面図.

魚探観測：深度 50～100 m にイカナゴとみられる小規模な反応を確認（図 3）

海洋観測と同じラインで実施した魚探観測では、観測ライン A では IS06 付近の海底付近（水深 80～100 m）、観測ライン B でも IS08 付近の水深 90 m の底付近にイカナゴ類の魚群と思われる反応がみられました。今年 5 月に観測されたような大規模な棒状反応はみられませんでした。6 月の漁況は好調なことから、魚探に移りにくい底付近に魚群が分布している可能性があります。

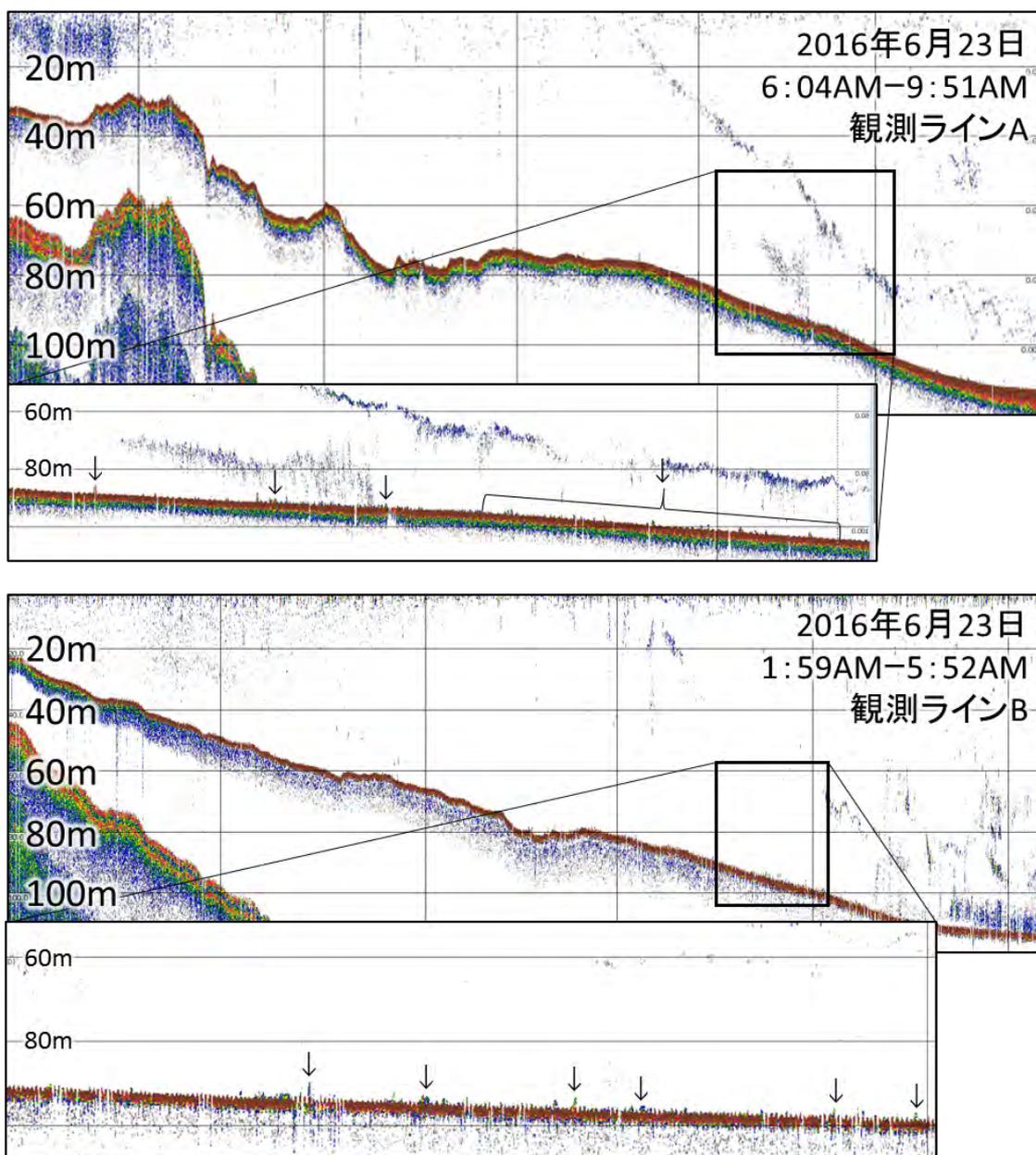


図 3. 観測ラインにおける魚探反応. 下図は図中黒枠内をそれぞれ拡大したもの. 矢印がイカナゴ類と思われる棒状反応, 表中層の反応はプランクトンなどの反応.